

スポーツ・サイエンス・インスティテュート(SSI)

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちを対象とする SSI において、アスリート学生たちの実態をふまえながら、履修指導・学習指導においてきめ細かな対応がなされている点は、とくに高く評価できる。卒業間近の学生たちを対象に、SSI 主催科目に関するアンケートを実施し、教員にフィードバックを行っているのも、優れた取り組みである。高大接続やキャリア教育も適切に実施されている。

教育課程・教育内容に関しては、各学部で SSI 専門科目を提供するように依頼する働きかけは、今年度も継続的に実施された。スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携は、一定の成果を得ている。SSI 参加学部や、スポーツ健康学部・スポーツ研究センターとの連携を進展される取り組みについては、継続的な粘り強い努力を期待したい。

ただし年度目標において、委員会の開催そのものを年度目標や達成指標としたり、年度目標と達成指標に同一の文言を記したりする点については、改善が望まれる。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学の方針により年度を通して、全ての授業をオンラインで実施した。そのような中でも、概ね年度目標に沿った取り組みを行うことができた。特に「重点目標」に掲げた日本スポーツ協会のスポーツ指導者制度改定に伴う本インスティテュートのカリキュラム変更については、カリキュラム委員を中心に日本スポーツ協会と連携を図り、滞りなく実施(達成)できた。このことは今年度(2021年度)の重点目標につながる成果であった。

大学評価委員会の評価結果は、概ね良好であったと認識できるため、引き続き年度目標の達成を強く意識し、コロナ禍における授業運営をより良いものを目指す。その一方で指摘のあった、委員会の開催そのものを年度目標にし、達成指標としたこと、また年度目標と達成指標に同一の文言を記入したことに関しては、大いに反省するところであり、2021年度で改善を図った。

SSIは市ヶ谷および多摩キャンパスの参加学部(10学部)によって成り立っており、それぞれが所属する学部とSSIにおけるカリキュラムの融合を図り、キャリアプランの幅を広げることが可能となっている。またアスリートのセカンドキャリアを意識した科目も配置されている。加えて SSI 生は現役アスリートであるため、スポーツ技術(パフォーマンス)の向上に寄与するスポーツ医・科学に基づいた専門科目も多く配置している。

今年度(2021年度)は、これまでの実績をもとにした、2024年度に向けたカリキュラム改定の準備(ロードマップの作成など)を重点目標にしている。今後も自己点検・評価を真摯に実施し、授業における質保証を十分担保しつつも、新しいことにチャレンジしていくことを目指す。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

SSIは、2020年度の「重点目標」に掲げた日本スポーツ協会のスポーツ指導者制度改定に伴う本インスティテュートのカリキュラム変更について、カリキュラム委員を中心に日本スポーツ協会と連携を図り、滞りなく実施(達成)できたことは大いに評価することができる。

質保証委員会に関しては、質保証委員会を年2回に増やし、オンライン授業の質保証に関しても検証するほか、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証するなどして2021年度で改善を図った点も評価することができる。

ただし、授業評価アンケートや成績、個別意見などが、特にオンライン授業の質保証にどのような形で生かされたのかをより具体的に検討し、結果の検証と次年度授業への反映の方法をさらに明確なものにすることが望まれる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>現行の SSI カリキュラムは、2015 年度に SSI カリキュラムポリシーに則って改定を行い、運用してきたものであり、限られた総コマ数の中で、幅広い教育内容に触れる機会を提供するため、教育内容を整理・集約することで戦略的に総コマ数のゆとりを確保したことが特徴であった。</p> <p>2016 年度第 4 回運営委員会、2017 年度第 1 回運営委員会において、SSI 生が所属する学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらうよう SSI 参加 10 学部へ依頼した。本件については、2021 年度も引き続き参加学部に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の抛出を依頼していく。</p> <p>SSI 生の特殊性を考慮した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」について、2017 年度に具体的な内容や評価方法などが議論され、2018 年度から開講した。その結果、全ての競技に取り組む SSI 生が履修できるようになり、科目履修の平等性が確保された。</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>日本スポーツ協会が推進するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更（名称変更）を実施した。</p> <p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SSI 履修要項・講義概要（シラバス） ・ 2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 ・ 2017 年度第 1 回 SSI 運営委員会議事録 ・ 2017 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 ・ 2020 年度末 SSI 運営委員会議事録 	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI 生は各学部の本籍を置くため、各学部で行われている初年時教育（基礎演習など）に参加している。SSI においては、基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」などが初年次教育の役割を果たしている。また 2018 年度より開講されている「オリンピック・パラリンピックを考える」については、新型コロナウイルスの影響によってオリンピック・パラリンピック開催が延期されたにも関わらず、高大接続の推進を目指して 3 つの付属高の生徒にも公開された。</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
③学生の社会的及び職業的自立を促すために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育に関しては、ILAC 科目 0 群に配備され、全学共通の公開科目となっている「キャリア教育プログラム」を利用しているほか、SSI 生が所属する各学部において実施されているキャリア教育も受けている。また SSI 独自に展開しているキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。これらは選択科目であるが、SSI 生の多くが受講していることが確認されている。</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ SSI 履修要項、講義概要（シラバス） ・ 2020 年度春学期 SSI 受講者数一覧 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 例年、大学入学前の 3 月末に、SSI 新生を対象に SSI ガイダンスを行っている。 ・ SSI 生が所属する学部によって、年度当初に行われる学部・学科ガイダンスが終了後、履修方法などに関する SSI 生を対象とした個別のガイダンスを行っている。 ・ クラブによっては、上記に加え、部長（専任教員）が履修および学習に関わる指導を行っている旨の報告を受けている。 ・ 2021 年度については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、2020 年度同様に対面でのガイダンスを実施せず、大学が提供する「学習支援システム」を通じてオンライン（オンデマンド形式）でガイダンスを行った。 	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
<p>本来は、例年通り大学入学前の 3 月末に SSI に所属する全学生を対象に SSI ガイダンスを行う予定であったが、本年度は昨年度につづき、新型コロナウイルス感染防止のため、「学習支援システム」を通じて、オンラインによりガイダンスを行うことになった。ガイダンスでは Microsoft PowerPoint で作成した資料に沿って、音声ファイルによる説明と指導を行った。履修登録は、「学習支援システム」を通じて行ったが、不慣れなどの理由で履修手続きが困難な学生に対しては、所属学部事務窓口および SSI 事務相談窓口で履修サポートを行った。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度 SSI 履修の手引 (https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20210323140800/) ・ SSI 履修のポイント（SSI カリキュラム委員会作成） ・ 2021 年度第 2 回 SSI 運営委員会 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
<p>例年、新年度が始まる直前の 3 月末に SSI 新生ガイダンスを行い、その中で大学における授業の必要性、学業と体育会活動の両立や履修のポイントなど、修学上の注意事項を執行部の教員を中心に説明している。しかし、新型コロナウイルス感染予防の観点から、本年度は対面でのガイダンスを行わず、昨年度同様に大学ホームページ（SSI 関連ページ）を介し、動画ファイルと音声ファイル、履修の手引きなどを用いて修学上の指導を行った。加えて、履修困難な学生に対して、SSI 事務相談窓口を設置し、履修支援を行った。</p> <p>SSI 生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ない場合がある。その際には、大学の公式書類である「競技参加による欠席願い」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンスおよび各学部学科のオリエンテーションやガイダンスにおいて指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、「学習支援システム」を利用した資料配布や課題の設定などを行っている。また SSI 生が「学習支援システム」を有効に活用できるようにするため、必要に応じて SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。</p> <p>成績不振者に対する指導は、運営委員会および FD ミーティングで情報を共有して対応している。対象学生の所属学部においても、学部独自のルールに従って、面談や学習指導を行っている。今後はさらに関係各所と情報共有を図り、より一層学部と協力して学習のサポートができるよう検討する。</p>	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各授業の学習支援システム 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>全ての科目で授業時間外に行うべき学習活動（準備学習など）が指示されており、その内容はシラバスを通じて周知されている。授業に使用する資料やレジュメなどを「学習支援システム」から事前に配布し、準備学習を行うよう促している。また今年度から課題に対してのフィードバックを授業内に実施するよう依頼し、その方法は各授業のシラバスにも明記してある。</p> <p>学生が「学習支援システム」を活用できるよう、教員各々が担当する授業の中で「学習支援システム」の使い方を解説している。本システムを活用できていない学生が見られた場合は、SSI 事務相談窓口と執行部で連携を図り、迅速に問題解決を図る。</p> <p>また授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対し、「学習支援システム」を通じて、動画を提供する授業が行われている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の学習支援システム ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス） 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。 ・テーマを与えて、グループ・ディスカッションやディベート、グループワークなどのアクティブラーニングが実践されている授業もある。 ・Zoomを用いたリアルタイムの授業では、ブレイクアウトルーム機能を活用している授業がある。 ・「学習支援システム」などを利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の学習支援システム ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス） 	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>SSI は学生数に対して開講できる総コマ数が少ないため、受講者が教室の定員を超える場合がある。現在は SSI 参加学部（10 学部）から SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の提供を受けているため、若干のゆとりが確認できている。今後はさらに参加学部へ依頼して科目数の増加を目指す努力を行う。</p> <p>一方で、スリム化対象となる過小人数受講者の授業も見られるため、全体的なバランスを考慮して受講者数の極端な偏りについて検討する必要がある。今年度は予め過小人数受講者の授業に対して、オンライン形式を科目担当教員に依頼した結果、5月時点で全ての授業が改善された。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>SSI の特性として、早朝練習があるクラブの学生や1時限の履修を控える学生に対して、オンラインにしたところ、履修者の改善が認められた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2021年度 SSI 履修状況一覧（未発表）	
⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
※取り組みの概要を記入。 新型コロナウイルスの影響により、SSI の全ての授業がオンラインへの対応を余儀なくされた。オンライン形式は、リアルタイム型やオンデマンド型、資料配信型とし、個々の授業については担当教員の裁量に応じて実施した。オンライン授業では、自宅で聴講する学生が多く認められたため、通信環境に配慮して授業全体の構成（オンライン配信時間と課題取り組み時間）を工夫した。また環境整備が遅れた学生に対しては、後日個別に対応した科目も認められた。リアルタイム型の授業では、毎回の中で学業面や生活面、体調面について学生より聴取し、心身の健康に配慮した授業もあった。成績評価に関しては、授業実施後に課題（リアクションペーパー、小テスト、ショートレポートなど）を課した授業が多く認められた。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。 ・SSI 運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 ・成績評価は基本的に担当教員の裁量事項であるが、S から D・E までの評価割合は執行部として把握している。特に S の割合については、大学の基準を周知している。 ・SSI 運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価法に関する意見交換を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学および SSI）	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・データの把握主体：SSI 執行部および SSI 運営委員 ・把握方法：学務部によって集計された全学および SSI の GPCA などに関するデータをもとに、SSI 運営委員会や FD ミーティングにおいて共有、把握している。 ・データの種類：成績上位者の分布や進級状況など	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学および SSI） ・2020年度年度末 SSI 運営委員会議事録	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 SSI 生は各学部にも所属していると同時に、各自専門競技に特化した活動を行っている。それらの特徴を踏まえた学習方法の検討を行った結果、2018年度より「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、その受講者数を SSI の特性に応じた学習成果測定の一つの指標としている。 また「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」において、受講生が事前に提出する申請書や事後に提出する報告書を参考に、学生自らが自身の成長を把握、評価できるような仕組みを導入している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017年度第4回運営委員会議事録	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 卒業を間近に控えた4年生を対象に「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートでは、SSI主催科目に関するヒアリングを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。これらの結果は、執行部で集約・把握し、SSI運営委員会において委員にフィードバックを行い、意見交換を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 教育課程およびその内容、方法の適切性については、執行部を中心とした、主にカリキュラム委員によって定期的に点検・評価を行っている。同時に質保証委員によっても点検・評価を行っている。その他、SSI主催科目担当教員によって、定期的にFDミーティングを行っており、カリキュラム編成や授業実施方法の改善や向上について意見交換を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・授業改善アンケートの結果の利用は、主に担当教員に委ねられているものの、SSI執行部がアンケート結果をチェックし、問題点の洗い出しを行っている。 ・質保証委員がシラバスチェックを担当し、シラバスの表現方法や不足分について、正確に記載するよう担当教員に促している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業のシラバス	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI は、日本スポーツ協会が推進するスポーツ指導者制度の改定に伴いカリキュラム変更（名称変更）を実施したこと、初年次教育・高大接続の一環として「オリンピック・パラリンピックを考える」という科目が3つの付属高の生徒にも公開されたことなど、教育課程・内容の見直しが着実にはかられている。

今年度から課題に対してのフィードバックを授業内に実施するよう依頼し、その方法を各授業のシラバスにも明記している点は評価できる。また、早朝練習があるクラブの学生や1時限の履修を控える SSI の学生に対して、オンライン授業を実施するなど履修改善の効果を上げている。

SSI 生は各自専門競技に特化した活動を行っていることから、2018 年度より「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、その受講者数を SSI の特性に応じた学習成果測定の一つの指標にするという独自の取り組みを行っている。

専門競技を行っている学生を対象に学部を超えたインスティテュートプログラムを設置し、スポーツ能力の向上を目指しながら将来に向けてより幅広いキャリアプランニングを可能とする教育を長年実施して、実績を積み上げてきたことは高く評価することができる。

2 教員・教員組織

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①組織内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 執行部とカリキュラム委員および質保証委員によって、FD 活動に関する検討を定期的に行っている。 質保証委員会を設置し、執行部と連携を取りつつ、FD 推進センターの取り組みも踏まえた活動を進める体制を整えている。 全ての SSI 主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。 2020 年度は新型コロナウイルスの影響もあり、年度当初計画していた FD ミーティングが開催できなかった。その対応として、年度末に開催した第 12 回 SSI 運営委員会に続いて FD ミーティングを開催し、コロナ禍で実施したオンライン授業に関する報告や問題点、その改善方法、今後の課題などについて意見交換を行った。 <p>【2020 年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <p>第 1 回 FD ミーティング（2020 年 3 月 17 日にオンラインで開催）</p> <p>テーマ：コロナ禍におけるオンライン授業のあり方—授業紹介と今後の展望—</p> <p>参加人数：7 名</p> <p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、SSI 運営委員会は全てオンライン（メール審議および Zoom によるリアルタイムミーティング）で行ったため、FD ミーティングについてもオンライン（Zoom によるリアルタイム型）で開催した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 科目シラバス原稿の手引き続き 法政大学シラバス WEB 入稿システム教員向け入稿ガイド 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・ SSI シラバスに関する疑義・指摘
②組織編制やFD等に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教員による学生の通信環境調査の実施 ・ オンライン授業の準備や実施方法などに関する情報共有の推進 ・ 各キャンパスにある学生相談室と連携した学生および教員への情報配信 ・ 授業相談窓口を SSI 事務と連携して設置
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入 <ul style="list-style-type: none"> ・

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

【この基準の大学評価】

SSI は、昨年度も評価されたように、SSI 執行部とカリキュラム委員および質保証委員によって、FD 活動に関する検討を定期的に行っているほか、全ての SSI 主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めているなど、FD 活動は適正に行われている。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、学生支援や社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 全ての授業がオンラインとなったため、授業に関する情報・連絡などは、学習支援システムおよびメールなどを通じて行った。また年度初めの SSI 履修ガイダンスをオンラインで実施した。
【根拠資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度 SSI 履修の手引 (https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20210323140800/) ・ SSI 履修のポイント (SSI カリキュラム委員会作成)

【この基準の大学評価】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

SSIは、新型コロナウイルスの対応として、2020年度においてFDミーティングが開催できなかったことから、年度末に開催した第12回SSI運営委員会に続いてFDミーティングを開催し、コロナ禍で実施したオンライン授業に関する報告や問題点、その改善方法、今後の課題などについて意見交換を行っている。また、学生への情報発信方法として執行部および事務からの連絡にメーリングリストを作成している。これらの点は評価することができる。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。	
	年度目標	・本年度、新たにSSI 質保証委員会を編成（新委員を選出）し、同委員会を開催する。	
	達成指標	・SSI 質保証委員会を開催する。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		19年度につづき、質保証委員を2名選出し、運営委員会の開催に合わせて、適宜質保証委員会およびカリキュラム委員会を開催した。審議事項としては、20年度新型コロナウイルス感染症対策に関し、特にオンライン授業となったことにもなう諸課題の抽出および改善などについて協議・審議した。また、SSI 主催科目のシラバスについて、質保証委員が、第三者の立場より、適切な記載がなされているか確認を行った。	
	改善策	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。	
	年度目標	1. 19年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう、各学部に働きかける。 2. 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。	
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう、運営委員会で1号委員を中心に意見交換を行う。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		運営委員会において、各学部から選出されている委員に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目をSSI 専門科目として提供してもらえるよう依頼した結果、19年度と同程度の科目や科目数の提供をうけることができた。 また、日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートを構成する科目の内容を見直すなど、カリキュラム変更を達成することができ、以後の全面改訂に向けて始動することもできた。	
	改善策	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	・アクティブラーニングの導入を模索する。	
	達成指標	・科目の特性や担当教員の意向を確認し、導入が必要、可能な科目を洗い出す。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	新型コロナウイルス感染症の影響によって、20年度は年間を通して、すべての科目がオンライン授業となった。その功名として、教員（兼任講師を含む）の多くがZOOMによるリアルタイムのオンライン授業を実施し、その機能の一つである、ブレイクアウトルームを用いた結果、アクティブラーニングの導入を進めることができた。
		改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	・19年度に引き続き、以下に取り組む。 1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	達成指標	1. FDミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		2号委員委員によるFDミーティングやカリキュラム委員会において、コロナ渦におけるオンライン授業についての情報収集をおこない、委員間で情報共有を行った。 また、全学およびSSI生のGPCA平均集計表を作成し、運営委員会において成績に関する情報共有と意見交換を行った。	
改善策	学生アンケートをGoogleフォームにより回収することに改善したが、実施時期により、回収率が下がることが判明した。回収時期を前倒しし、回収率を上げるようにする。		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能なSSIの教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。	
	年度目標	1. SSIとの連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。	
	達成指標	1. SSIとの連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を提供してもらい窓口を設置し、執行部内で適宜共有・検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		S	
理由		新型コロナウイルス感染症の影響によって、20年度は年間を通して、すべての科目がオンライン授業となった。初めて実施するオンライン授業に対応するため、SSI執行部により「オンライン授業のサポートデスク」を設け、主には兼任講師の質問に対応した。それにより、目立った混乱は認められず、授業の運営をスムーズに進めることができた。 スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部所属教員との連携については、SSI主催科目の外部講師として協力を依頼し、登壇してもらった。	
改善策	—		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生支援
	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応に当たって必要な情報を適宜発信する。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図る。
6	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	運営委員会において、学生から得られたアンケート結果をもとに、SSI 参加学部教員と情報共有を行った。 コロナ渦にともない、大学構内に入構できない学生が多くいるなかで、大学キャリアセンターと連携して「アスリートのキャリア支援セミナー」をオンラインによって実施した。また、大学スポーツ協会（UNIVAS）による入学前の事前教育プログラムの実施を希望する部に対してセミナーの情報を周知し、いくつかの部が参加した。 上記の内容を含め、執行部および事務からの連絡をメーリングリストを作成し、情報発信を行った。
	改善策	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	・ 19 年度に引き続き、参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	達成指標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	実施 2 年目となった 20 年度は、オンラインでの授業実施にも関わらず、1 名の受講生が受講を修了した。 当該受講生は 2 年連続の受講生であり、履修に関する満足度が高いとの報告を事務局より受けている。
	改善策	—
【重点目標】		
・ 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。		
【目標を達成するための施策等】		
1. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。		
2. カリキュラムポリシーに沿った新カリキュラムを検討する。		
3. カリキュラム検討委員会を組織する。		
【年度目標達成状況総括】		
2020 年度は誰もが経験したことのない、新型コロナウイルス感染症が日本はもとより世界中で流行し、感染予防のためすべての講義がオンラインで実施することになった。そればかりか、緊急事態宣言が発出され、大学に入構制限がなされ		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

た結果、執行部ミーティングをはじめ、すべての会議がオンラインでの実施となった。そのような状況下において、重点目標である、日本スポーツ協会による公認スポーツ指導者制度の改定にともなう、SSI 科目のカリキュラム変更を実施しなければならなかった。

本インスティテュートのカリキュラム委員が中心となり、日本スポーツ協会との折衝や執行部および関連事務とのミーティングをオンラインで実施することで、年末には新カリキュラムが運営委員会で承認され、今年度の「重点目標」を達成した。それにより 21 年度から新カリキュラムでの授業運営が実施可能となった。なお、SSI カリキュラムは、インスティテュート設置後 15 年以上経過することから、2024 年度中に全面改訂を検討する準備を整えている。

【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

SSI は、質保証委員会に関しては、質保証委員会を年 2 回に増やし、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証するなどしておおむね年度目標を達成している。

教育内容に関して、とくに重点目標である日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴うカリキュラム変更について、日本スポーツ協会との折衝や執行部および関連事務とのミーティングをオンラインで実施することで、年末には新カリキュラムが運営委員会で承認され、このカリキュラムの変更という今年度の「重点目標」が達成されている。

新型コロナウイルスによりすべての科目がオンライン授業となった功名として、教員（兼任講師を含む）の多くが ZOOM によるリアルタイムのオンライン授業を実施し、その機能の一つであるブレイクアウトルームを用いた結果、年度目標の一つであるアクティブラーニングの導入を進めることができた点も評価できる。

学生アスリートのキャリア支援の方策について、大学キャリアセンターと連携して「アスリートのキャリア支援セミナー」をオンラインによって実施されている。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	新型コロナウイルス（変異ウイルスを含む）によって、オンラインによる授業形態が急速に導入されたため、これまで年度に 1 回開催していた質保証委員会を年 2 回に増やし、オンライン授業の質保証に関しても検証する。
	達成指標	春・秋学期中に 1 回、年度末にも 1 回、質保証委員会を開催し、学生の授業評価アンケートや成績、個別意見などを参考に検証する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	1. 20 年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として拠出してもらえるよう、各学部働きかける。 2. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、その礎となる問題点・変更点などを抽出する。
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として拠出してもらえるよう、運営委員会を通じて各学部の SSI 運営委員に依頼する。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴取を行い、カリキュラム委員会で検討した後、運営委員会でも共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	1. アクティブラーニング型の授業を増やし、その効果を検証する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		2. 大学が許可する対面授業において SSI 独自の科目を選定し、実施する。
	達成指標	1. 年度末に開催する SSI 運営委員会および質保証委員会において、アクティブラーニングの実施状況を把握し、その効果について協議する。 2. SSI 基礎科目（必修 7 科目）を独自に対面授業の対象とし、実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	昨年度につづき、学生を対象としたアンケートを実施し、以下について共有する。 ・ SSI 生の学習状況を把握する。 ・ SSI 学生の学習成果（成績）を把握する。
	達成指標	大学が実施するアンケートを活用して、SSI 生の学習状況を把握する。学習成果（成績）については、所属学部と連携し、必要に応じて個別に対応する。また各種アンケートの結果は、年度末に開催する SSI 運営委員会において共有する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に対し、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標	1. スポーツ研究センター執行部と連携を図り、引き続き協力を要請する。 2. SSI 執行部を中心に個々の教員に依頼する。 3. 昨年度と同様、オンライン授業に関する相談窓口を SSI 事務局内に設置し、各種情報提供および教員個々の質問や相談に応じる。また得られた情報を執行部内で適宜共有・検討する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応・実施にあたって、必要な情報を適宜発信する。 4. 学生がかかえる様々な問題に対応するために、学生相談室と連携をする。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 大学キャリアセンターと連携して、SSI 学生に対して情報発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携して、SSI 学生に対して情報発信する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	22 年度以降の履修証明プログラム実施のために、リモート授業の開講の増加を検討する。
	達成指標	引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。
【重点目標】		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2024年を目標に、本インスティテュートの抜本的なカリキュラム改訂を行う予定である。発足して以来、初めてのカリキュラム変更となるため、現状の問題点を適切に把握し、カリキュラムの礎となる概要を策定する。

【目標を達成するための施策等】

カリキュラム委員会を軸として、カリキュラム改定委員会（仮称）を立ち上げ、カリキュラム改定に向けたロードマップを作成する。

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

SSIは、カリキュラムがインスティテュート設置後15年以上経過することから、2024年度中に本インスティテュートの抜本的なカリキュラム改訂を行う予定とされている。そのためにカリキュラム改定委員会を立ち上げカリキュラム改定に向けたロードマップを作成することとされている。

伝統的な学部の場合とは異なり、SSIという新しいインスティテュートの独自のカリキュラム体系が出来上がっていない現状を踏まえると、スタートしてから15年以上経過した現時点においてカリキュラムの抜本的改定作業に取り組むことは妥当な選択であり、年度達成目標としても適切な設定と思われる。きわめて困難な作業と思われるが、専門委員会を立ち上げて集中的な取り組みを行おうとしている点も評価できる。ただし、このカリキュラム改定委員会では、ロードマップの作成ばかりではなく、いわずものがであるが、インスティテュートの教育目標の見直し、目標達成のための適切なカリキュラムのあり方、学生の達成度評価の方法など、これまでの教育成果を踏まえたうえで、カリキュラム見直しの基本的視点と具体的手法のあり方についても、十分に検討することが望まれる。

また、それと同時に長年の課題である各学部が主催する科目のうち、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として提出してもらえるよう依頼するうえで、当該科目がSSIの教育目標やカリキュラムポリシーに沿った科目に該当するか否かについて、該当学部と十分に協議することも必要と思われる。

【大学評価総評】

SSIは、とくに各種の専門競技を行っているアスリート学生を対象にスポーツ能力の向上を目指しながら将来に向けてより幅広いキャリアプランニングを可能とするなど、スポーツを科学的・文化的に捉えると同時に学部の専門分野を追求し、知識の融合を図ることで高度なスポーツ文化の担い手としての人材の育成を教育目標とするSSIは、その設置から15年以上経過した。そうした時期に、インスティテュートのカリキュラム体系の全面的な見直し作業に取り組むことを当面の目標として設定したことはきわめて時宜にかなったものといえる。

その場合に、これまでの教育目標やそれに沿ったカリキュラムポリシーが十分に達成されているのか、不十分な場合にはどこに課題が潜んでいるのか、その課題を解決するためにはどのような点を再検討する必要があるのか、といった点について、専門委員会で十分に協議し、本インスティテュート関係者の間で共有することが必要であろう。また、そうした作業の取り組みの一環として、学生のニーズや評価を把握する作業が不可欠であろう。本インスティテュート受講者の卒業後の追跡調査やカリキュラム見直しのための学生に対する固有のアンケート調査の実施も検討してもよいと思われる。なお、自己点検・評価シートにおいて「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020年度目標が概ね達成されていた場合についても、次年度さらなる成果を出すためにも必要であると考えられる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。